

自殺遺族支援チャリティライブ

力道山夫人が講演



自殺対策支援活動への理解を促す釈正輪老師
#1月31日、千葉・船橋市東部公民館

一月三十一日、千葉県の船橋市東部公民館において、NPO法人「One One」(下山隆代表)の国際自殺対策協議会が主催する「自殺遺族支援チャリティライブ」が開催され、二百人の参加者が会場を埋めた。

ライブに先立ち、同法人西日本自殺対策協議会会長・川西順久氏が開会

の辞を述べたあと、力道山夫人の田中敬子氏、柿本寺住職・釈正輪老師が講演を行った。

田中氏は、夫である力道山の生涯と人となりを紹介した後、「力道山は本当に優しい男であり、愛情深い夫だった。家庭では子供をかわいがり、私の両親も大切にしてくれた。強い男は優しい男

だ」と語った。そして、「主人がいつも弟子たちに教えていたことは、最後まであきらめるんじゃないぞ」ということ。

これが皆さんへのメッセージです」と結んだ。

同法人の顧問である釈老師は、自殺対策支援活動に対する意識を喚起し、協力を呼びかける講演を行なった。「先日、四ッ谷駅での人身事故に遭

遇、一人の青年が人生を終わらせた出来事だが、今日全くニュースにもならないほど、日常的に起こっている自殺。日本では、年間三万人以上がそのために命を失う。世界でも第七位の自殺率である。そこに由々しき問題

が潜んでいる。人間は三大欲があるといわれるが、それは動物も同じ。人間だけはその他に自尊心を認めてほしいという証欲がある。この欲が満たされない時、それが外向きになると虐待、いじめ、紛争、戦争へと広が

り、内向きになると自らを虐待し、生命をリセットしてしまつ自殺につながる。どうしようもない世の中、証証欲を満たせないような環境が広がっている。

二十数年前にインドでマザーテレサに教えられた。自分が理解されたければ、まず相手を理解すること。自分がゆるさなければ、まず相手をゆるすこと。自分が愛されなければ、まず相手を愛すること。」「私が、私が」という自己主張ではなく、進んで仲間となり、友となつて、虐待を阻止しましょう。他を思いやり、和のつながりを大切にす日本の伝統を

取り戻し、友を信じて行きましよう」と説いた。

後半のライブでは、オカリナ奏者の本谷美加子、シンガーソングライターの香蓮が自作の曲を演奏。××××のボーカリスト××××がゲスト出演し、「大切なもの」など癒やしの歌を地元ダンスチームの子しらもちと一緒に熱唱した。

最後に、同法人東日本自殺対策協議会会長・櫻庭寛氏が、一人の自殺遺児から届いたメッセージを紹介、その心の世界に対する理解を促した。

国最大級の広さを誇る。土づくりにこだわり収穫された作物は有機JAS認定機関の厳しい検査に

四條隆彦氏が庖丁儀式

宮神治

耕民族で魂志倭人伝には日本は気候温暖で野菜が一年中を通して食べられる。とある。ところが現

法人の活動を紹介した。参加者は御料荘園で採れた野菜などをメインに

認定機関の厳しい検査に